

優秀賞

ぼくはどきどき

岡山県 総社市立総社中央小学校五年 小野 風太

あの日、ぼくはどきどきしていた。いいどきどきじゃない。不安とさみしさと悲しさが混じりあった感じのどきどきだ。

ぼくは総社市に住んでいる。七月六日金曜日の夜、ねていたぼくは、お父さんに大声で起こされて目が覚めた。何が何だか分からず二度ねしそうになったぼくにお父さんは、

「がんばって起きろ、死ぬぞ。」

と怒った。外はすごい雨だった。おとといから降っている雨は、どんどん強さを増して、家の周りにはぐちやぐちやだった。ぼくたち家族は、小学校にひなんした。いつも通っている小学校は、運動場にどんな車が入ってきて、何だかちがう場所みたいだった。その日は三階の教室で一晩をすごした。友だちにも会ったけれど、遊ぶようなふんいきでもなく、ちよっと話して別れた。弟たちはタオルケットにく

るまって、教室のゆかでねていた。ぼくはねる気分じゃなかった。教室にはたくさんの人がいて、けいたいの防災メールが何度も鳴っていた。みんなのけいたいがいつせいに鳴るから、その音がぼくを不安にさせた。いつのまにねむったのか、目が覚めたら朝五時だった。市役所の人が高はし川の水位が下がってきたと教えてくれた。家に帰る前に、土手を通った。いつもサッカーをしているグラウンドや時々バーベキューをするしばふは見えなくなっていた。ただ、大きな大きな水の水の川になっていた。家に帰って、いつもと同じ家を見てほっとした。

土曜日だったけれど、お母さんは

「みんなをよろしくね。」

と言って仕事に行った。お父さんは自分の店を見に行つて、ぼくたちは祖父の家で待つことになった。テレビでは大雨のことばかりニュースになっていた。

ぼくはまだ、どきどきしていた。次の週末もお母さんは仕事に行った。ボランテアセンターの仕事だと言っていた。お父さんはやきそばをたくさん焼いて、ひなん所に届けた。お父さんの友だちは、水上バイクでたくさんの人を助けたそうだ。市役所には被害にあった人のためにたくさんのお金が届いている。ボランテアの人もたくさん来て、暑い中がんばっている。

あの日から、みんながみんなのために動いている。みんながみんなのことを思って、できることをしようと動いている。ぼくには何ができるだろう。今のぼくにできることは、お母さんやお父さんが安心して仕事に行けるように、弟たちのめんどうを見ること。でもそれだけじゃ、何だかどきどきがおさまらなくて、兄弟でためていたおこづかいをばい金箱に入れた。弟はいやがったけれどせつとくした。ほんの少しのお金だけど、何かの役に立てればいいと思った。

